

樋爪館周辺 想像 歴史絵図 五郎沼設置の鳥瞰図貼り替え 《文治5年(1189年)7月を想定》 内城弘隆氏が新たに作成

《文治5年(1189年)7月を想定》



樋爪館は、奥大道(鎌倉街道)と北上川が南北に走る交通の要衝であり、物流と軍事に加え、産出砂金支配の拠点であった。また、政庁・御所・寺院(大莊嚴寺)を構成要素に持ち、平泉と同様の構成となっていた。

五郎沼古代ハス池傍に建てられている屋根付き看板にある、樋爪館周辺想像歴史絵図がこのたび貼り替えられた。この想像歴史絵図は、本会会員の内城弘隆氏(日詰在住)が近年の樋爪館周辺の発掘調査報告等に基づいて作成された。

以前の歴史絵図と基本的には大きな違いはないが、名称がより具体的に掲げられており例えば、北条館を政庁(第一次)とし、樋爪館を政庁(第二次)としている。また、五郎沼観音堂を中之島観音と改め、さらに五郎沼東方に樋爪河岸都市集落を加えるなどをし、830年前の樋爪館周辺を想像するに値する絵図である。

この活用として、先に行われた紫波一中の総合的な学習「紫波町の歴史を学ぶ」樋爪館周辺の歴史についての説明材料として、また、五郎沼古代ハス案内所開設による見学者へ、絵図の看板前にてガイドをし往時の理解を図った。

《《《9月～10月行事予定のお知らせ》》》

<p>9月20日 (水曜日)</p>	<p>第143回 月例発表会</p>	<p>時間：午後7時～9時 場所：赤石公民館 和室 テーマ 「陸奥話記(むつわき)を読む ②」 発表者 宇部 真澄 ※8月配付の資料持参のこと テーマ 「日本の仏教⑱ 曹洞宗(1)永平寺と道元」 発表者 宮 良男 ※8月配付の資料持参のこと</p>
<p>10月18日 (水曜日)</p>	<p>第144回 月例発表会</p>	<p>時間：午後7時～9時 場所：赤石公民館 和室 テーマ 「陸奥話記(むつわき)を読む ③」 発表者 宇部 真澄 テーマ 「北方の民 2」 発表者 金 濱 興 一</p>

令和5年8月16日に開催した第142回月例発表会において、発表者が用いました資料等から一部分を抜粋して掲載しましたのでご了承願います。

宇部真澄の「陸奥話記(むつわき)を読む①」

『陸奥話記』は、奥州十二年合戦(1051~62)の顛末を描いた実録的軍記であり、『奥州物語』、『奥州合戦記』とも呼ばれたようである。

陸奥話記 現代語訳

訳は新編日本古典文学全集41 及び 陸奥話記現代語訳(西田耕三)による

(1)安倍頼良、陸奥国に横行

奥六郡を束ねる俘囚の司、安倍頼良という者がいた。これは安倍忠良の嫡子である。その祖父忠頼は東国辺境に住む蝦夷の首領であった。その武勇の名声は六郡に聞こえて、いずれの部族もどの集落も皆付き従った。かくして奥六郡を意のままに横行し、その民を脅して税を収奪していた。

※奥六郡=胆沢、江刺、和賀、稗貫、紫波、岩手の北上川中流域の六郡

その子孫ははなはだ増えはこびり、次第に衣川以南の陸奥国へと侵入して住むようになった。しかも頼良は陸奥国で得た田祖を納めず、調庸をも果たすことがなかった。

安倍氏は代々驕り高ぶっていたが、誰一人これを抑え治めることができなかった。永承年間(1046~1052)に、陸奥の国守藤原朝臣登任が数千の軍兵を招集して攻めようとした。出羽国の、秋田城の介、平朝臣重成を先鋒として国守自ら兵士を率いて後軍となった。頼良は諸部落の俘囚を引き連れて防ぎ、頑強に鬼切部に戦った。国守の軍勢は戦いに敗れて、多くの死人が出た。

※鬼切部=現在の宮城県大崎市鳴子温泉鬼首

宮良男の「日本の仏教⑳ 臨濟宗(3) 京都五山・盛岡五山」

盛岡五山

定めたのは南部信直とも重信ともいわれ臨濟宗法泉寺も含めると6カ寺ともいわれる。

	名称	宗派	開山	開基	創建	御本尊	記事
一	宝珠盛岡山 永福寺	真言宗 豊山派	懐良親王 と菊池氏	坂上田村麻呂 により十一面 観音堂	正応4年 [794]	大聖歓喜天 (十一面観音)	南部家祈願時 盛岡城の鬼門鎮護 860石 三戸から移転
二	大光山 聖寿禅寺	臨濟宗 妙心寺 派	特賜兩朝 国濟三光 国師	南部實光	建久3年 [1192]	釈迦如来	南部家菩提寺 500石 千体地藏堂(御重塔) 方長老作庭 本堂は八角堂
三	大宝山 東禅寺	臨濟宗 妙心寺 派	無俣妙什 和尚が 遠野附馬牛	⑬南部守行	建武年間 [1334~ 1336]	釈迦如来 (春日作)	南部家菩提寺 240石 寛永6年(1801)盛岡へ 五基の藩主墓石
四	瑞鳩峰山 報恩禅寺	曹洞宗	通山長徹 和尚 (柏崎市 香積寺5世)	⑬南部守行	応永元年 [1394]	釈迦如来 (聖徳太子作) 嘗て奈良 中禅寺本尊	慶長6年(1601)三戸 八幡山から移転 200石 檜山佐渡処刑場 五百羅漢堂 享保20年 (1735)駒野丹下他作
五	擁護山 無量院 教浄寺	時宗	覚阿湛然 和尚	⑩南部信長	元弘3年 [1333]	阿弥陀如来 (恵心僧都作 鎌倉中期) 南部利直公 奉納	⑩南部茂時の菩提 清浄光寺(遊行寺) 慶長17年(1612)7月 三戸から移転 200石 信直居城後入仏式